

島原殉教地

17 世紀前半にこの場所で数多くの信徒が殉教したことから、ローマ教皇庁はこの海岸を公式巡礼地に認定しています。捕まって島原城の牢に入れられたキリシタンたちのうち、16 人が指を切り落とされて小舟に乗せられ、棄教しないと首の周りに石を巻いて有明海に沈めると迫られました。全員が棄教を拒否し、溺死させられました。

キリシタン武士パウロ内堀作右衛門は、かつて島原を治めていたキリシタン大名、有馬晴信（1567-1612）の家臣でした。彼は 3 人の息子が海に沈められるのを見せられ、自身も雲仙岳で熱湯に浸けられて処刑されました。パウロと 3 人の息子は、2008 年 11 月、ローマ教皇ベネディクト 16 世によって列福された 188 人の日本人殉教者に数えられています。

一部の歴史家によると、かつてこの海岸の向かい側には元商人のポルトガル人宣教師ルイス・アルメイダが教会を建てた島がありました。この島は、おそらく 1792 年の島原大変によって消滅しました。この災害では、普賢岳の噴火に誘発された巨大地震が眉山の崩落と大津波を引き起こし、周辺地域の地形を一変させました。